

ありまふじ里山だより

Vol.4

『ありまふじ里山だより』では、棚田里山エリアの自然の様子や里山保全に向けた取り組みについてご紹介します。Vol. 4は里山とアラカシ伐採跡の様子をお届けします。

花の季節から、葉の季節へ

里山ではタンナサワフタギなどの白い花がわずかに見られますが、春のいっときに比べると、花がずいぶん減り、ひと段落したように感じます。代わりに木々の葉が茂り、淡い緑から濃い緑に変わりつつあります。

日によっては初夏を思わせるような暑さとともに、湿った空気が漂い、もうすぐ梅雨入りであることを教えてくれます。

梅雨といえば、アジサイにカタツムリを連想してしまいがちですが、この時期里山でも葉っぱの裏を覗くと、見つけることができます。夜行性のため、昼間はこうして乾燥と天敵から身を守り、夜になると餌を求めて動き出すのだとか。

アラカシの伐採跡

低林管理実験区とは別に、昨年度もう1つ伐採したところがあります。アラカシの太木です。いわゆるドングリの木ですが、常緑広葉樹のため、林床が暗くなり下草がほとんど生えなくなってしまいます。

この伐採跡では、林冠ギャップから光が差し込むようになり、下草が生え始めるなどの変化が見られています。